

令和2年度第1回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 自己評価の総評

正社員23名に自己評価実施。

自己評価は3回目でした。

はじめは、質問項目の意味もなかなかつかめない職員もおりましたが、少しずつ理解度が高まってきました。理解度の高まりと同時に、本来「できている」と評価していたことが、本当にできているのだろうかと考えるようになってきた職員が増えました。自己評価の集計を行いました。数字ではなく、回答の傾向に着目し、課題抽出を実施しております。「できていないことが多い」もしくは「全くできていない」という評価の合計が5以上になった評価項目をグレーに色付けしております。そこから、自己評価結果の、今後の当事業所の課題と取り組みについてご説明したいと思います。

まず、一番できていないという評価が多かった項目として、「介護・医療連携推進会議の記録やサービスの概要及び効果などの、地域に向けた積極的な情報発信」という項目でございました。こちらは、前回会議にて、ホームページに掲載する予定でしたが、ホームページを作り直したばかりで、現在対応中となっておりますので、できていない評価となっております。会議録はあり、目を通すことはできるのですが、社員の多くがその会議録を見ようとする意識が少なかったことが課題です。管理者や一部の責任者などの職員だけが意識している状況でした。また、情報発信については、新型コロナウイルスの影響で研修機会などが減り、情報発信する予定だった研修や講習、会議などが無くなってしまったことも要因と考えています。今後は、会議録を作成するだけでなく、そこから事業所課題をより明確に打ち出し、ホームページなどを活用し、情報発信をしていきたいと考えております。

次に、「地域包括ケアシステム」について、言葉はわかっているけれども、実際に現場でその概念をどのように活用すればよいかかわからない職員も多いことが課題でした。改めて「地域包括ケアシステム」について学びを深めるとともに、その概念を現場で、どのように生かすべきかについても研修などで学びの機会を作ろうと考えております。

最後に、前回の自己評価は良かったのですが、少しばらつきが出てきている点として、「介護と看護の連携」についてです。毎月、介護と看護、それぞれで情報共有を行い、ケースカンファレンスなどを行っておりますが、介護、看護の連携となると、疾病のことやアセスメントについて情報提供をしても、本人の想いや生活面の情報提供が少ない部分があります。また、同じ事務所の中で活動しており、いつでも情報共有できる環境ではありますが、その都度担当者レベルだけで情報共有していることが多く、情報共有の結果を周知するという部分が弱いので、情報共有結果をSNSなどでアップし、ファイルなどでもわかるようにして、情報共有の漏れを無くすようにしていきます。また、今後は介護と看護の連携時に、定期的な時間を確保して、集まって話し合いをする場も設けていければいいと考えております。

よって、令和2年度としましては、「もっと地域の皆さんに、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を知ってもらえるようにする。」「介護と看護の連携を『対話』を通じて強化する。」という2点を課題として、取り組んでまいりたいと考えます。